

島根県ライフル射撃協会

—— これまでのあゆみ

昭和40年3月より本格的に始まったライフル射撃協会は、令和7年には創立60周年という、歴史ある競技団体である。

発足当時は、練習場もなく苦労されたようだが、第37回のくにびき国体が行われる3年前（昭和54年）には、今の松江市八雲町にある県立ライフル射撃場が完成したことにより、選手のレベルは徐々に上がってきた。

国民体育大会では、毎年のように入賞者を出し、高校生では松江市大庭町にある立正大学浜南高等学校の射撃部員の活躍により、令和5年には島根から初めて、高校生で世界大会に出場するなどめざましい活躍を残している。

—— 現在の状況

ライフル射撃は、まだまだ認知度が低くさらなる宣伝が必要である。

競技人口が減少している中、2030年島根かみあり国

スポに向け、小中学生を中心としたチームライフル射撃教室やスポレク祭、スポーツレクリエーション等を通じて射撃を多くの方に知っていただき、選手の獲得、育成の強化に懸命に取り組んでいる。

成年選手では、選手のいない種目もあることや協会員の減少にも、協会役員が危機感を持って一丸となり、ライフル射撃協会発展のために取り組んでいる。

—— これから

協会内では、成年選手や審判員・指導者の資格を持つものが少なく、厳しい状況ではあるが、ここ数年立正大学浜南高等学校射撃部卒業生（地元出身者）が大学へ進学し、射撃を続けており、卒業後地元へ帰って活躍してほしいと願っている。

審判・指導者の育成も今後の課題であるがスポーツ教室、アスリートキッズ体験会等を通じて、幅広くライフル射撃を知ってもらい、選手獲得に努めて2030年島根かみあり国スポに向けさらなる組織の充実と選手強化に取り組んでいきたいと考えている。



いずれも第74回国体中国ブロック大会（島根県ライフル射撃場）